

第1章 人と共に

第1節 生涯にわたって生きる力を支える「確かな学力」を身に付ける

人間が自立して生きていくためには、主体的に学び自ら考える力と、それを支える基礎・基本が必要不可欠です。本県の子どもが知識や技能に加えて学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力等の「確かな学力」を身に付け自己実現を図ることができるよう支援します。

このため、教育課程の改善・充実、体験的・問題解決的な学習の充実、少人数教育の推進、個に応じた指導の充実など、子どもたちが「学び」の楽しさや意義を学び、意欲をもって学ぶことができる環境づくりに努めるとともに、子どもの「確かな学力」の向上を図るため、地域や家庭との連携により、学校で学んだ成果を実際に生かせるような場の創出に努めます。また、学習内容の系統性や発展性に配慮しつつ、小・中・高等学校の一貫した学習指導の充実に努めます。

(1) 生涯にわたって生きる力を支える「確かな学力」を身に付ける	<p>「確かな学力」の育成 小・中・高等学校の一貫した学習指導の充実 読書を通じた知的活動の推進 学校と社会教育との連携</p>
----------------------------------	---

項 目	具体的施策の方向
<p>「確かな学力」の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 自ら学び自ら考える力を育む教育課程の改善・充実 知・徳・体のバランスのとれた資質・能力の育成を目指し、教育課程の改善充実に努めます。 <p style="margin-left: 20px;">学習指導要領の趣旨や内容に関する教育課程講習を開催するとともに、効果的な指導方法について研究します。</p> ▶ 生きる力を支える「確かな学力」の育成 児童生徒が「学び」の楽しさや意義を学ぶことができるよう、わかりやすく個に応じた授業を展開するなど「確かな学力」の育成に努めます。 <p style="margin-left: 20px;">様々な課題を追究する方法、ものの見方や考え方を身に付けさせるとともに、学校で学んだ知識や成果が子どもたちの中に定着し、日常の生活や将来の職業生活、家庭生活に実際に生かしていくことのできる力の育成に努めます。</p> ▶ 少人数教育の充実 生活面、学習面など学校生活全般において、きめ細かな指導と児童生徒一人ひとりの個性に応じた教育を展開するため、小学校、中学校全学年において導入した30人程度学級を実効あるものとしします。 ▶ 体験的・問題解決的な学習の積極的な導入 児童生徒が達成感を持つことができる学習を展開するため、児童生徒の発達に応じた体験的な学習や問題解決的な学習の充実に努めます。 ▶ 学習評価の在り方の改善・充実 児童生徒の学習の到達度を評価基準等により客観的に評価するための方策、全県的な学力調査や学校の自己点

	<p>検・自己評価の在り方等について、その改善・充実に努めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 進路希望の実現を図る学力向上事業の推進 児童生徒一人ひとりの個性に応じた多様な進路希望実現のため、学力向上を図る学校の主体的な取り組みを支援するとともに、教員の指導力の向上のための施策を推進します。 ▶ 個に応じたきめ細かな学習指導の充実 児童生徒の習熟の程度に応じた指導、ティーム・ティーチング等個に応じた指導を拡充するなど、児童生徒一人ひとりの個性や能力に応じたきめ細かな指導の充実に図ります。 ▶ 複式学級における学習指導の充実 児童生徒の実態に応じて、きめ細かな学習指導や専門教科指導の充実に図るため、小学校における変則複式学級等に非常勤講師を配置し、複式学級における学習指導の改善を図ります。
<p>小・中・高等学校の一貫した学習指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 小・中・高等学校の一貫した学習指導の充実 学習内容の系統性・発展性に配慮しつつ、小・中・高等学校の一貫した学習指導の充実に図ります。 また、小・中・高等学校を通して、学ぶ喜びや学ぶことの意義を実感させ、学ぶ内容と学ぶ方法についての理解を深めるための指導に努めます。 ▶ 中高一貫教育の推進 6年間を見通した計画的・継続的な学習や幅広い年齢集団の中での活動により、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばし、社会性や豊かな人間性を育む中高一貫教育は、平成17年度から連携型で始まり、併設型についても検討を重ね、整備を推進します。 ▶ 完全学校週5日制に対応する教育課程の改善 学校週5日制の実施に伴い、各教科等の教材や学校行事の精選など教育内容を厳選し、ゆとりある学校生活の中で特色ある教育を展開します。
<p>読書を通じた知的活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 子どもの発達段階に応じた読書指導の充実 子どもの年齢や発達段階に応じて、童話などの読み聞かせを行ったり、全校一斉の読書活動を行ったりするなど、読書に親しむ場や機会を拡充することにより、生涯にわたる読書生活の礎を築きます。 ▶ 読書を通じた児童生徒の知的活動の推進 学校図書館を中心とした読書指導を充実させ、一人ひとりの知的好奇心を喚起するとともに、読書活動の充実に図ります。
<p>学校と社会教育との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 完全学校週5日制に対応する学校管理運営の改善 地域における学習・教育センターとしての学校の役割を重視し、学校開放を積極的に進めます。 ▶ 学社連携・融合の推進 学校と地域の社会教育施設等が相互の教育機能を効果的に利用するなど、学校教育と社会教育との連携・融合

を推進します。

▶ 青少年自然体験活動の推進

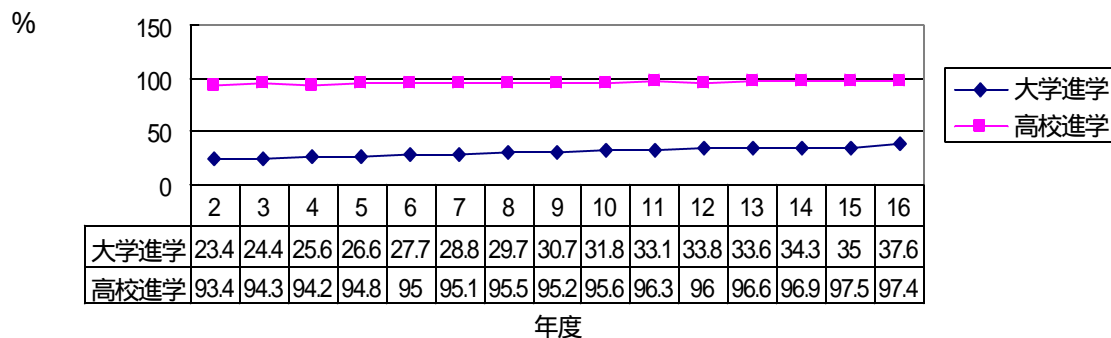
学校で学んだ知識等を様々な場面で実際に生かせるよう、地域社会における子どもたちの自然体験・生活体験の場の整備や体験機会の拡充に努めます。

〔語注〕 (第1節 生涯にわたって生きる力を支える「確かな学力」を身に付ける)
この欄は、五十音順に整理し、巻末に「用語集」としてまとめて掲載しています。

チーム・ティーチング (Team Teaching)	複数の教員等による協同授業のことで、T・Tと略される。外国語指導助手(ALT: Assistant Language Teacher)と日本人外国語教員が協力して行う形態が多いが、算数、数学などの実践に広がっている。
完全学校週5日制	平成4年9月に月1回の学校週5日制が導入されて以来、平成7年4月から月2回の実施となり、平成14年度から完全学校週5日制が実施されている。
学社連携・融合	学校教育と社会教育がそれぞれ独自の機能を発揮し、相互に補完しながら協力するという考え方が「学社連携」であり、さらに一歩進めて、それぞれの要素が重なり合いながら、一体となって青少年の教育に取り組んでいこうとすることを「学社融合」と言う。

進学率の推移

(企画学力向上G調べ)



加配教員数

(市町村立学校グループ調べ)

* 個に応じた指導及び学力向上IDプラン(平成9~11年度)、ライジングプラン基礎学力向上推進支援事業(平成12~14年度)、ふくしま夢実現プラン基礎学力向上推進支援事業(平成15、16年度)、うつくしまっ子みらいプラン(平成17年度)に係る加配教員数

人

